

おおの

議会だより

No. 121

平成11年4月25日

発行

大野市議会事務局



春季消防総合訓練
(4月8日)

第302回 3月定例会

議案29件、請願1件を可決・同意

第三百二回定例市議会は三月四日に開会され、理事者から提出された議案二十九件と請願一件を審議しました。

初日は、会期を二十三日までの二十日間と定め、平成十一年度一般会計予算案をはじめとする二十七議案についての提案理由説明が行われました。

九日には、代表質問を市誠会代表砂子三郎議員が行い、その後、笹島彦治(市誠会)、榮正夫(共産党)米村輝子(優風会)の三議員が、一般質問に立ちました。

十日には、本田章(市誠会)、坂元千秋(公明党)村西利榮(市誠会)、浦井智治(共産党)高岡和行(無)の五議員が、十一日は、

谷口彰三(市誠会)、松田信子(優風会)兼井大(市誠会)の三議員が、それぞれ一般質問に立ちました。

質問終了後、初日上程議案のうち八議案について採決が行われ、その後、請願が上程され、初日上程の議案とともに所管の各委員会に付託されました。

最終日の二十三日には、各委員長報告の後、議案等の採決が行われ、十一日に採決された議案を除き、議案十九件はいずれも原案のとおり可決されました。

続いて、監査委員の選任、人権擁護委員候補者の推薦に関する追加議案二件が上程され、これに同意しました。

最後に、中部縦貫自動車道整備促進特別委員会が設置され、八名の委員が選任されて閉会しました。

また、皆さんから提出された請願の審議結果は別掲のとおりです。

市政をきく 代表・一般質問から

大野市都市景観条例について

問 行政が一方的に条例を制定するのではなく、もっと住民に対して周知徹底を行い、理解と協力を得ることが肝要だと考えるがどうか。

答 この条例を実践するに当たっては、北陸の小京都といわれる当市の特性ある景観を保持し、また美しいまちづくりを推進するために、市民と行政の深い認識と協力が必要であると考えている。

この条例案では、景観重要建築物や景観形成地区・地点の指定、景観の形成に大きな影響を与える大規模行為に対する規制・景観形成市民団体の認定・表彰および助成制度などを規定している。

市民への周知策としては、平成九年に大野市景観づくり基本計画書概要版を市内全戸に配布したほか、景観づくりの意識付けとして大野市景観賞やまちづくりシンポジウムを実施した。

この条例が制定されると、「大野市都市景観審議会」を設置し、景観重要建築物・景観形成地区・地点の指定候補を審議するとともに、本年九月末までに対象となる地区住民の意見や意向を聞くなどして、都市景観形成基準・助成要綱等をまとめたい。

今後、景観事業を推進するため、さまざまな機会を捕らえ市民の意見や意向を聞きながら啓発活動に努めたい。

また優れた建築物・団体などには都市景観賞の表彰を継続して実施し、各種講座による啓発・シンポジウム等も実施していく考えである。

第四次大野市総合計画について

一次代の社会動向を見極め

問 人口減、少子・高齢化等次代の社会状況の変化を十分見極めた計画にすべきでないか。

答 これまでの社会情勢は、経済性を重視した大規模開発や公共事業を中心とした社会基盤の整備により、経済成長や人口増

加を目指してきた。

しかし近年、国も歴史的な大転換期を迎え、本格的な少子・高齢者社会の到来、国際化・高度情報化社会の進展・環境問題等が重要な課題となっており、これらを念頭において市政を推進する必要があると考えている。

第四次大野市総合計画は、平成十三年から二十二年までの十年間としたいと考えている。

計画策定に当たっては、少子高齢化・人口の減少傾向や経済の国際化・地球規模にまで広がった環境問題・高度情報化の著しい進展等の社会情勢の変化を的確に捕らえ、住民の価値観・生活様式の多様化等の本格的な地方分権時代の到来に対応した計画としたい。

また次代の社会動向についても、適切な計画策定の基礎となる主要な目標数値を設定し、策定作業において

は、市民の意向が反映される計画にするとともに、新しい世紀の最初の十年間の当市のあるべき姿を示す、最も重要な計画であり、十分論議を重ねながら作業を進めていきたい。

また社会経済システムの大きな流れの中で、地方分権制度が現実化し、個性豊かで活力に満ちた大野らしさを目指すために、自主性と自立性を生かした行政組織の確立を図る必要があると考えている。

二十一世紀を目前に控え、社会潮流の変化を的確に捕らえ、今後のあるべき方向を見極め、「環境保全と人づくり」を基本に「力強く・やさしく・美しい大野」を目指し、夢のある活気あふれる市政運営に努めたい。

亀山周辺整備計画について

問 亀山周辺整備計画については、提案理由の説明で、都市マスタープランを尊重しながら計画するとしているが、このこと

は西部アクセスを実施するとの前提であり、策定計画の費用が予算化されたことなどから、有終西小学校等の問題も含め、一定の方向性が定まっているものと考えているがどうか。

答 亀山周辺整備計画については、都市マスタープランを尊重しながら、十一年度中に基本的な方針を決定したい。

そこで、都市マスタープランを尊重しながらは、有終西小学校を移転改築し、西部アクセスを整備するとの基本方向としながら、大野高校跡地を中心とした亀山周辺整備の基本的な方針を決定することであり、西校の取り扱いについては、現在、学校用地確保までの間に、市民のコンセンサスや所要経費等総合的に検討を行っており、結論を出すにはしばらく時間が必要であると考えている。

審議日程

4日	本会議	(会期の決定、議案上程・提案理由の説明)
5日	休会	
8日	本会議	(代表質問・一般質問)
9日	本会議	(一般質問)
10日	本会議	(一般質問、一部議案について採決、請願・陳情上程、各案件委員会付託)
11日	本会議	(総務文教)
12日	委員会	(総務文教)
13日	休会	
14日	委員会	(総務文教)
15日	委員会	(産経建設)
16日	委員会	(")
17日	委員会	(")
18日	委員会	(民生環境)
19日	委員会	(")
20日	休会	
22日	本会議	(各委員長報告・質疑・討論・採決、追加議案上程・採決、特別委員会の設置および委員の選任)
23日	本会議	

大野市地域医療体制について

総合病院の建設断念

問 今回、総合病院建設を断念したが、市民の理解を得る必要があったのではないか。また、これまでの誘致の経緯や医師会病院建設の可能性等はどうか。

答 昭和三十五年に「総合病院建設審議会」を設置して以来、区長連合会からの総合病院早期実現を求める要望や早期建設促進市民総決起大会が開催され、また「済生会大野分院」等の誘致の話もあったが、実現には至らなかった。

しかし、総合病院建設問題は最重要課題と認識しており、平

中部縦貫自動車道整備促進特別委員会を設置

大野市の発展に欠かすことのできない、中部縦貫自動車道の整備促進を図るため、特別委員会が設置され、次の八議員が委員に選任されました。

委員長	松井治男
副委員長	笹島彦治
委員	松田信子
	寺島藤雄
	幾山秀一
	岡田高夫
	本田正夫
	榮田正夫

成八年度には地域医療施設に関する基礎調査を行い、医療需給の現状と課題を正確に把握するとともに、その後、大野市地域医療協議会に市民公募による委員を加え、地域医療の方向について協議が行われてきたが建設は不可能との具申を受けた。

この具申を受けて検討したところ、医療保険制度の改革等により、病院経営は厳しさを増す一方、社会経済情勢の変化により、医療を取り巻く環境は極めて厳しくなっていることや、医療スタッフの確保も非常に困難であることなど、県保健医療計画との整合性も含めて総合的に判断すると、総合病院の建設は断念せざるを得ない。

しかし、市民は急病に対する不安や高齢化に対応した医療サービス体系の樹立を強く望んでおり、救急医療体制の確立を図るため、休日急患診療所の機能充実に努めたい。

また高齢化社会に対応した医療福祉施設として、市立老人保健施設の建設を計画していきたいと考えている。

問 緊急医療体制をどのように考えているのか。

答 平日夜間は市内のかかりつけ医や救急指定病院で診療をお願いし、土・日曜・祝日は夜間も含め休日急患診療所で対応できるように機能充実に努めたい。

県では、二次救急に対応するため、国立・県立・済生会・赤十字を病院群輪番制として、休日・夜間の重傷救急患者の診療に対応している。

当市も福井社会保険病院（旧勝山病院）が病院群輪番制に加えられるよう協力し、周辺病院と連携強化を図りながら、患者の搬送に適した高規格救急車両の配備や救急救命士の増員等、搬送体制を強化していきたい。

問 休日急患診療所に小児科を加えることとしているが、その経過と医師の確保はできるか。

答 平成九年度受診者のうち、小児科の患者数が全体の四十三パーセントを占めており、地域医療協議会でも、夜間における小児科診療の問い合わせがあるとの報告を受けている。

また専門医師を招いての研修会でも、専門の診療体制が必要であるとの指導を受けた。

こうした状況を踏まえ、診療体制の充実に努めるため、医療機関や医科大学等へ派遣を依頼し常勤医師の確保に努めたい。

問 脳外科・脳神経科など脳血管障害に対応する診療科目を加える考えはないか。

答 脳卒中等で倒れた場合、高度の入院治療の必要性から、休日急患診療所では応急的措置を行い、その後治療に適した救急医療機関へ搬送できる体制を整



備するとともに、福井社会保険病院等との連携を強化して対応したい。

問 保健福祉センターの建設計画について聞きたい。

答 国の研究機関では保健センターを軸として、各種の福祉センターを組み合わせるのが合理的と提言しており、当市の人口規模では、診療所・デイサービス・在宅介護支援センター・ヘルパーステーション等の機能を有した老人福祉センターや総合相談窓口、また社会福祉協議会が行っている心配ごと相談や地域活動の場などが考えられる。

具体的な建設計画を立てるに当たっては、各種事業の一部を実施している既存施設を活用しながら、複合的施設として、より効率的な方法を協議しながら充実に努めたいと考えている。

医療費の無料化について

問 三歳児までは現在医療費を無料化しているが、年間の医療費の助成額はどれくらいか。

答 平成六年から三歳未満を対象に、保護者の所得制限を撤廃して、医療費の自己負担分について、乳幼児医療費助成事業を実施している。

十年度の実績見込みは、児童数約千三百人に対し、約四千三百八十万円を助成している。

児童一人当たりでは平均三万三千四百円で、総数の六十七パーセントが助成を受けている。

問 六歳児までを無料化にする、追加費用はどれくらい必要か。また、市独自の施策として六歳児まで無料化して実施する考えはないか。

答 乳幼児医療費助成事業は、現在県から二分の一の助成を受けて実施している。

この助成事業を、六歳未満児まで拡大した場合には、対象児が二倍以上になり、負担額が約六千六百万円が必要となる見込みである。

この制度を拡大するには、財政的に大きな負担となるので、国や県の助成制度の動向を見極めながら対応したい。

観光拠点施設整備について

問 十一年度に旧織物工業協同組合の洋館を改築し、観光拠点施設を整備することになっているが、この管理・運営をどのように計画しているのか。

答 観光案内や物産販売・飲食等の機能を持つ施設として、この洋館を早急に整備し、観光客の利便や市街地の活性化を図るため本年度中に整備したい。

管理運営計画については、行政が管理運営するのではなく、民間の活力により、コスト意識や良質のサービスを生かした第三セクターとして、平成大野屋の組織強化を図り、管理・運営



早期の整備が待たれる観光拠点施設(旧織物工業協同組合)

を委託していきたい。

また洋館は本年度早々に着手し、秋の各種イベントで活用できるように整備する計画であるが平蔵については、十二年度の夏に開催する恐竜エキスポに間に合うよう整備したいと考えている。

問 亀山周辺整備との整合性をどのように図っていくのか。

答 これらの建物は観光拠点施設として整備し、平成大野屋本店機能を併せ持つ施設として、亀山周辺整備に先駆けて整備するが、亀山周辺整備計画を具体化するに当たっては相乗効果が高まるよう十分配慮したい。

問 拠点施設周辺の環境整備をどのように考えているのか。

また新堀川の保全やグリーンロードの整備等をどのようにしていく考えか。

答 これまで新堀川へのコイの放流や御清水・朝倉義景墓所・越前大野城へ案内する道しるべとして、グリーンロードの整備等を行ったが、老朽化が進んでいるので、まち並みにふさわしい市内観光道路とするため本年度は調査・研究を行い、来年度

に取り組みたい。

また新堀川へのごみ投棄や生活雑排水の流入による水質汚濁の改善についても、現在調査・研究を行っているが、市民の協力も必要であり、今後継続して環境についての啓発活動を実施していきたい。なお新堀清水については、亀山周辺整備計画と一体的に検討したい。

平家平のブナ林の活性化策について

問 ブナ林の活用については将来、環境保全も含めて、教育や保養・観光面など施設管理を今後どのようにしていくのか。

答 管理については現在、市の天然記念物であるトチの巨木・ブナ林・オウレン等の維持管理および遊歩道・登山道の補修など必要最少限の保全整備を行っている。

今後の活用方針は、ブナの天然林など、貴重な自然環境の保全を第一に考え、二十一世紀の子孫に引き継ぐため、平成九年度より三力年計画で動植物の生態・分布など、調査研究を実施している。

十二年度は検討委員会を設置し、森林資源等の有効活用、植生・生態系の整備・管理方法等の活用方針を取りまとめたい。

議案等の審議結果

議案番号	件名	結果
第四号	平成十一年度大野市一般会計予算案	原案可決
第五号	平成十一年度大野市国民健康保険事業特別会計予算案	原案可決
第六号	平成十一年度大野市老人保健特別会計予算案	原案可決
第七号	平成十一年度大野市簡易水道事業特別会計予算案	原案可決
第八号	平成十一年度大野市農業集落排水事業特別会計予算案	原案可決
第九号	平成十一年度大野市下水道事業特別会計予算案	原案可決
第十号	平成十一年度大野市水道事業会計予算案	原案可決
第十一号	大野市都市景観条例案	原案可決
第十二号	大野市一般職の職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例案	原案可決
第十三号	大野市職員の特殊勤務手当に関する条例の一部を改正する条例案	原案可決
第十四号	大野市納税貯蓄組合奨励に関する条例の一部を改正する条例案	原案可決
第十五号	大野市国民健康保険基金条例の一部を改正する条例案	原案可決
第十六号	大野市文化財保護条例の一部を改正する条例案	原案可決
第十七号	大野市福祉事務所設置条例等の一部を改正する条例案	原案可決
第十八号	大野市立保育所設置条例及び大野市立へき地保育所条例の一部を改正する条例案	原案可決

介護保険制度について

問 介護保険制度が、保険あつて介護無しにしないためにも、新ゴールドプランを早急に策定し、これを確実に実施していくべきではないか。

答 平成十二年四月から導入される介護保険制度は、国が老後の不安要因である介護を、社会全体で支える制度であり、現在当市では介護給付を円滑に実施するため、介護保険事業計画の策定作業を進めている。

問 また、この事業計画と併せて平成五年度に策定した老人保健福祉計画の見直しを行い、介護保険対象外のサービスや高齢者の生きがい対策等についても、現行サービスが確保できるように計画したい。

問 総合福祉センター建設について方向性が示されたが、具体的な建設計画はあるのか。

答 高齢社会に対応した医療福祉施設の整備・充実に計画的に進めるため、保健・医療・福祉の一体的なサービスが提供できるように、総合福祉センターを整備したいと考えている。

介護保険等の需要量、サービス提供必要量を十分見極めながら、調査研究等も早急に行い、

事業実施の方向性を明らかにしていきたい。

問 また総合福祉センターについては、長・中期的な計画になるが、今後各関係者の意見等を聞きながら、考え方を集約していきたい。

問 介護保険の申請が困難な人への対策はどうするのか。また日常的な啓発活動はどうか。

答 申請は本人以外でも家族・ケアプラン作成事業者・介護保険施設・介護老人保健施設などが代行できる。

また啓発活動については市報や、各地区での説明会を計画している。

問 認定審査会の設置方法、また審査判定に対して、どのような認識で取り組む考えか。

答 訪問調査の結果や「かかりつけ医」の意見書は、保健・医療・福祉各分野の専門職五人程度で構成される「介護認定審査会」において審査判定され、その結果に基づいて市が認定して申請者に通知する。

「介護認定審査会」は認定業務の公平性・中立性の確保や事務処理の簡素化を図るため、大野・勝山地区

広域行政事務組合で行っていききたい。

問 要介護認定の結果、訪

問介護サービスから除外される高齢者が、従来のサービスを受けることができないか。

答 介護保険制度の大きな特徴として、被保険者が保険給付を受けるには、当市の要介護の認定が必要となる。

市に対して認定申請があり、調査員が被保険者を訪問し、日常生活・動作能力や問題行動の状況などの事項を調査し、一次判定を行い、この結果と「かかりつけ医の意見書」に基づき、

介護認定審査会で保険給付の適否や要介護度を決定する二次判定を行う。

要介護認定区分は、要支援と要介護に大別され、要介護は一から五までに区分され、合わせて六段階となる。

この認定に基づき、要支援または要介護度に応じて介護保険サービスの範囲内で利用ができることとなる。

自立と判定された方は、対象外となり、訪問介護サービスを受けることができないので、介護保険とは別に、県や市が独自に実施するサービスで対応していかなければならないと考えている。

今後の対応として、「介護保険事業計画」の策定と併せて、

十一年度に予定している「老人保健福祉計画」の見直しの中で検討したい。

訪



請願の審議結果

番号	件名	提出者	結果
第十九号	大野市都市計画審議会条例の一部を改正する条例案		原案可決
第二十号	赤根第一汚水幹線管渠埋設工事・第一工区請負契約の変更について		原案可決
第二十一号	終末処理場水処理施設土木工事・第一号工事請負契約の変更について		原案可決
第二十二号	大字・字区域の変更について		原案可決
第二十三号	大野・勝山地区広域行政事務組合規約の一部変更について		原案可決
第二十四号	平成十年度大野市一般会計補正予算(第八号)案		原案可決
第二十五号	平成十年度大野市国民健康保険事業特別会計補正予算(第二号)案		原案可決
第二十六号	平成十年度大野市老人保健特別会計補正予算(第二号)案		原案可決
第二十七号	平成十年度大野市簡易水道事業特別会計補正予算(第三号)案		原案可決
第二十八号	平成十年度大野市農業集落排水事業特別会計補正予算(第五号)案		原案可決
第二十九号	平成十年度大野市下水道事業特別会計補正予算(第三号)案		原案可決
第三十号	平成十年度大野市水道事業会計補正予算(第四号)案		原案可決
第三十一号	監査委員の選任について		同意
第三十二号	人権擁護委員候補者の推薦について		同意
請願一号	乳幼児医療費の無料化を国としておこなうことを求める意見書提出の請願	新日本婦人の会 福井県支部 会長 辻 照子	不採択

仮称「スターランド」 さかだに」について

問 市民だけでなく、市外も対象に公募を行い、名称を決定したらどうか。

答 完成後の具体的な名称は決まっていない。今後は、事業主体の奥越農村整備事務所と協議を重ね、中山間総合整備事業の主旨に添うよう、広く市民から公募して決めるのが最良の方策だと考えている。

問 事業の完成とオープン時期はいつか。

答 昨年度は活性化施設・イベント広場・どんぐり農園・体験農園の用地整備と、これら施設の実設計を行った。

本年度は、活性化施設本体の建築と付帯工事を行い、年度末

人事案件

監査委員（議会選出）の
選任に同意

畑 中 章 男 氏（49歳）
（糸魚町3番6号）

には完成の予定である。

問 また器具類・備品等の整備や運営に関して、準備期間も必要であり、オープンは平成十二年の夏頃を予定している。

問 地元関係者と管理運営計画の内容について協議しているがその進捗はどうか。

答 阪谷地区開発促進協議会の会長や地区代表者と、施設の活用方法などについて協議を重ねているが、今年二月中旬には、施設の間取り等について了解を得た。

事業内容は、EM菌を使った堆肥の製造やそば体験・みそづくり体験・また左義長・星まつり等を検討している。

管理・運営は、県・市の担当者や地元代表者が中心となり協議を進めているが、本事業は本年度が完成予定であるので、今後

後にも精力的に協議を進め、地区民との合意のもとに、施設が効果的に運営できるよう体制づくりに努めたい。

人口増と商店街振興について

問 以前人口五万人構想を打ち出したが、定住人口は増加していない。今後増加策をどのように考えているか。

答 第三次大野市総合計画にお

いて、五万人都市の実現を目標としたが、近年の少子化による人口減少傾向から困難であると判断し、大野市都市マスタープランにおいて、平成二十七年を目標準年として四万五千人と設定した。

人口の減少傾向に歯止めをかけるには、中部縦貫自動車道の整備促進をはじめとする、高速交通ネットワークの実現によって、経済や文化の交流圏域の拡大が図られ、地域独自の産業の振興や観光客の増加により、地域経済が進展し、新たな雇用の場の創出を考えている。

また、ベンチャー産業と大野ブランドづくりを支援するとともに、商店街などにぎわいの場を創出する一方、公営住宅の整備により若者の定住を図ることも大切である。

さらに本年中に観光拠点施設を整備し、平成大野屋事業の展開により、人・物・情報のネットワークが充実され、交流・滞在人口、ひいては定住人口の増加につながるかと考えている。

具体的な施策として、本年度から策定作業に着手する第四次大野市総合計画を基に推進していきたい。

問 商工業振興策として、各種イベントに対する助成・融資制度以外に地域振興の活性化策をどのように考えているか。

答 当市の商業は歴史的には商店街が中枢であるが、商店個々の規模は比較的小さく、また時代のすう勢として大型店の進出計画もあつて、中心商店街の環境は厳しい状況である。

昨年度は、大野商工会議所が事業主体となり、中心市街地活性化モデル対策事業を実施し、歴史的な景観を生かした、まちなか観光と連携する商店街づくりについて、調査・研究を行ってきた。

当市としても、道路の石畳化や休憩施設・案内看板等ハード事業を実施し、商店街活性化の条件整備を図ってきた。

またソフト事業では、各商店街のイベントに対し支援を行っており、市街地を訪れる観光客も、ここ数年増加傾向にあり一応の成果を得ている。

今後、中心市街地の活性化に向けて分析を行い、まちなか観光と一体となり、ソフト・ハード事業の調和を図りながら商店街振興策を充実させたい。

六間通りの パーキングエリアについて

問 六間通りのパーキングエリアを撤去して、買物客のための駐車帯として活用し、商店街の自主管理に任せたらどうか。



六間通りのパーキングエリア

答 不法駐車防止と周辺商店街の駐車事情を考慮して、駐車禁止区域であった六間通りに、一時間駐車できるように、昭和六十二年に県公安委員会がパーキングエリアを設置した。

現在、大野警察署が管理しており、これを大野市交通安全協会に業務を委託している。

しかし、駐車時間が少なくなると料金も一定であることや、小銭のないときの両替等の煩わしさもあり、利用が少ないのが実情である。

周辺商店街からは撤去の要望もあるため、今後、商店街等の責任において、常時監視人を配置するなどの管理体制が確立でき次第、県当局に駐車方法の改善等を働きかけたい。

制度融資預託金減額補正について

問 商工業に対する制度融資について、十年度当初の見込みと実績について聞きたい。

答 十年度の実績見込は、商工業振興資金の利用が最も多く、運用額六億円に対し三十六件、約一億七千五百万円の借入れがあり、二十九・三パーセントとなっている。

また企業体質改善特別資金は運用額三億円対し一千万円、地域経済安定対策特別資金は二億四千万円に対し八千五百万円であり、原資が大幅に余り、減額補正を行った。

なお利用の減少要因は、投資全体の冷え込みにより、設備資金や経営規模の拡大による運転資金等、前向きな需要が減少していると考えている。

問 十年度実績を踏まえて融資制度の見直しを行い十一年度予算に反映させたのか。

答 現行制度は、平成九年度に改正したもので、商工業振興資金のうち、長期の運転資金と設備資金の融資限度額を拡大するとともに、運転資金と設備資金の併用も認めている。また商工業振興資金のほかに、もう一種類利用できるなどの制度改正を

行ってきたっており、制度を大きく見直す予定はない。

十一年度は制度融資の利用率を増やすため、信用保証料の二分の一の補給を行い、利用者の増加を図っていききたい。



七間朝市の振興について

問 買い物客が悪天候でも利用できるよう、アーケード等の対策を考えたことはあるか

答 アーケードの設置は、商店街との共存共栄を図っている七間朝市の素朴で情緒ある風情をなくすほか、七間通りからの景観上の問題もあって、あまり好ましい対策とは考えていない。

また設置は商店街自らが行うものであり、国・県等の助成や高度化資金を活用しても数億円

の財政負担が見込まれ、現下の経済状況から、実現は困難であると考えている。

今後、朝市の特性を保ちながら、振興協議会や出荷組合とも協議して、朝市の振興を図りたいと考えている。

二十一世紀を担う人づくりについて

問 二十歳代前後を対象とした人材育成事業の推進する考えはないか。

答 特に二十歳代を対象とした事業は実施していないが、人材育成の主な事業への取り組みとして、越前大野平成塾や大野明倫館事業を展開している。

地域づくりは人づくりとの観点から、二十一世紀に向けた个性的で魅力あるまちまづくりを推進するためのリーダーの育成を目指している。

また人材育成としては、社会教育課や各公民館が青年組織づくりや青年教室等を実施しているが、青年の減少とともに、地域社会への関心が希薄になり、趣味志向の拡大が進むなど、青少年活動の停滞を招いているのが現状である。

近年は、歩っ歩(ほっほ)の会や越前こぶし組などの若者を中心とした活動が芽生えつつある。

本年度は、地域社会教育活動総合事業や子ども地域活動促進事業などに取り組み、二十一世紀を担う人材の育成に努めたいと考えている。

問 民間主導の青年団体設立に対する支援策を考えているか。

答 地域づくりや人づくりは、住民主体を基本として展開されるものである。団体の育成を目的とした補助は、社会教育関係団体に限られているが、二十代に限らず地域住民がさまざまな発想のもと、組織化を図り、地域社会に貢献する市民活動には積極的に支援していききたい。

障害者に配慮した公共施設づくりについて

問 市役所・図書館等にエレベーターや障害者用トイレ等を設置する考えはないか。

答 障害者や、高齢化さらには加齢による障害化の対応も重要な課題である。

本年度には、障害者プランの策定に着手し、地域住民と行政が一体となったハード・ソフトの両面からの総合的な「福祉のまち」の構築を重要な課題として捕らえており、プランの中で当市の方向性を提示したいと考えている。

また公共施設等の障害者に対する対応については、その構造や利用状況、経費等も踏まえ、計画的に改良ができるよう対処したい。

問 投票所で障害者や高齢者への利便性を考慮した改善を図るべきではないか。

答 また障害者の郵便投票制度が十分周知されていないように思うがどうか。

答 現在車椅子を利用し、誰れの介護も受けず投票できる投票所は、不在者投票所以外に二会場しかなく、身障者の方には不便をかけている。今後、車椅子の配置・簡易スロープ等の増設・改善に努めたい。

また郵便投票制度については以前市報等でPRしたが、近年はあまり行っておらず、今後、各関係者と協議を重ねながら周知方法等を考えたい。

人事案件

人権擁護委員候補者の推薦に同意

多田正則氏 (66歳)
(伏石第16号6番地)

委員会報告

各委員会における協議事項、意見、要望等の趣旨について、それぞれ委員長よりの報告は次のとおり。

●総務文教常任委員会

○青年組織づくり事業について

近年、青年組織団体は減少する傾向にあるが、間近に控えた二十一世紀を担う青年層の活力は、本市の活性化、また地域づくりの原動力として大変重要であり今後、青年層の意向を十分踏まえて、組織づくりのための指導・強化を積極的に進めるとともに、団体への育成・支援策を講ずるべきである。

○亀山周辺整備事業の推進について

この問題は、本会議でも論及され、理事者に対し、今後の方向について早急に結論を出すべきとの意見であったが、理事者の説明によれば、大野高校跡地を含む亀山周辺整備計画については、専門家の助言を受け精査して、基本的な構想の方向付けを行いたい。

また整備計画に伴う有終西小学校移転については、本年九月定例会までに、明確な方向性を提示したいとのことである。

今後の亀山周辺整備策定計画は、有終西小学校の移転場所を十分考慮して、都市マスタープランの提言を遵守し、関係部局と連携を密にし、十分協議・調査・研究を重ねながら鋭意努力すべきである。

○平成大野屋推進事業について

観光拠点施設を整備し、平成大野屋の基点として、第三セクター方式で事業を展開したいとの理事者の説明であるが、管理運営面に関しては、当市の財政事情を十分考慮するとともに、現在の社会情勢を加味し、関係団体・機関等と管理・運営について問題点を十分精査して、市民および観光客に親しまれ、有効利用が図られるよう最善の方策を講じられたい。

●民生環境常任委員会

○福祉全般について

今後導入される介護保険制度や障害者福祉計画等により、福祉行政の事務事業量の増大が考えられるが、基本的なところから事業および事業実施機関の見直しを図り、全庁体制のもと十

分検討されたい。

またホームヘルパーについては、社会福祉協議会への委託業務等の増加が考えられるが、委託後の支援体制の確立を図るとともに、関係課と連絡調整を密にし指導・助言等も行うなど、社会福祉協議会の一層の充実・強化を図っていく必要がある。

○高齢者外出促進支援事業について

外出用歩行器や電動車いすの購入の補助制度導入は、老人福祉計画や障害者プラン策定の中で、適切な助成制度として評価できるが、今後事業を実施するにあたり、申請者等に不公平等が生じないとともに、助成事業が十分活用できるように、公共施設のバリアフリー化等に配慮願いたい。

○健康保養施設の利用に関することについて
利用促進を図るため、公共交通

通機関での利用者への利便性を考え、バス事業者等と十分な協議を行い、現在の路線バスによる施設までの乗り入れや、国道沿いに停留所を新たに設置するなど利用しやすい環境づくりを配慮して取り組まされたい。

○元気な老人対策について
高齢者が長く健康で生活するために、これまでのように、老人クラブ等への補助だけでなく、元気な高齢者の生きがい対策や既存公共施設を利用した憩いの場を設けるなど、ソフト面に留意した老人福祉対策について総合的に取り組まされたい。

●産経建設常任委員会

○農業集落排水事業について
供用を開始している各処理区において、管理運営経費の財源

となる使用料、一般会計からの繰入金などを総合的に比較して審査した。

その結果、本年度では各処理区間の公平性が若干、欠けているように見受けられるので、使用料の見直しを図るなど、その改善に向けて努力するとともに今後、供用または計画していく処理区も含めて、各処理区間での公平性が努めて保持されるよう、将来を見据えて今後検討されたい。

○都市景観条例案について

理事者からの、都市景観形成地区の指定などについては、行政側からの、一方的な指定ではなく、地域住民と十分な話し合いを持ち、相互理解を深めた上で行いたいとの説明はよく理解できるが、あらためて、この条例の所期の目的が住民理解の上で達成されるよう鋭意努力されたい。

議会日誌

◆1月

- 7日 子どもサミット事業 (中学生議会)
- 14日 会派代表者会議
議会運営委員会
議員全員協議会
- 20日 福井県市議会議長会臨時会 (福井市)
- 21日 第300回市議会臨時会

◆2月

- 14日 市議会一般選挙投票日
- 18日 福井県市議会議長会定期総会 (勝山市)
- 22日 新議員説明会
議員全員協議会
- 25日 第301回市議会臨時会 (組織議会)
- 26日 会派代表者会議
議会運営委員会
議員全員協議会

◆3月

- 3日 中部縦貫自動車道(永平寺大野線) 道路事業概要説明会
議員研修(金沢市議会傍聴)
- 24日 土地開発公社理事会
- 25日 大野地区消防組合議会定例会
- 29日 大野・勝山地区広域行政事務組合議会定例会

◆4月

- 8日 大野地区消防組合春季消防総合訓練
- "日 北信越市議会議長会定期総会 (福井市)
- 19日 会派代表者会議
- "日 議員全員協議会